

テキスト・授業の中にいかに文化理解を盛り込むか

中西 千香(愛知県立大学)

1.これまでのおさらいと本報告のテーマ

2010「コミュニケーション文法教育の課題～前置詞構文を例に」

文法事項と用法を教えるだけでは、場面にあわせて言うことまでは指導できていない。

2011①「表現の広げ方～単語学習からフレーズ(VO)学習へ～」/②「道をたずねるタスクに必要な材料とは？」

①一つの文法事項があらゆる動詞や名詞の組み合わせに適應するとは言えないことを知ったうえで、その用法を知り、教授者は学習者に提示すべきであること。

②道をたずねる、交通手段の使い方を学ぶ項目をもつ教材は多くあるが、それに必要な文法事項、語彙を覚えると、どの程度実践できるかを、教材の現状と現実社会との間にどれくらいの開きがあるのかをみた。教材で足りないものは、教授者が学習者の理解度にあわせて、適切に補充しなければならない。

■上記を通して、思い至ったこと: 普段の授業(スクリプトや文法、語彙のインプット)の際に、
合理的な社会ルールや文化的知識の習得はできないだろうか？

2.本報告で検討する文化→culture with a small c(小文字の c 文化) 當作 2005:262 より抜粋

- 文化と切り離して言語は教えられない、文化は言語使用のコンテキストを与える重要な要素である。
- 最終的には文化学習は文学作品を読むことになっていった。文学を読むことによって文化を知ることが文化学習であり、そこで得られた知識を外国語学習に活用しようというのが文化学習の目標であったと言ってよい。(Lessard Clouston1997)
- 外国語教育における文化教育に文化人類学視点を持ち込み、従来の文化教育の焦点であった文学、歴史、音楽、芸術のみならず、言語を話す国、人々の生活様式も文化教育が扱うべきだと主張し、前者を culture with a capital C(大文字の C 文化)と呼び、後者を culture with a small c(小文字の c 文化)と呼んだ。(Brooks1964,1975)

外国語教育における文化学習が理論的な発展のみで、実際のクラスでは実践されることが少なかった理由(當作 2005:264)

- (1)提案された文化項目、要素のすべてに関する知識を持つことは不可能であった。
- (2)どのレベルの学習者がどのようなレベルの文化、文化要素を学ぶべきかの学習のレディネス(発表者注:習得に必要な条件が用意されている状態)が示されていない。
- (3)外国語教育課程に持ち込むことがむずかしかった。
- (4)どのような教材を使ってこのような文化要素を教えるべきか具体的に示されなかった。
それでも言語能力と文化能力の獲得の重要性は変わりなく唱えられている。→ナショナルスタンダードにも反映

①大文字の C 文化 →中国文学、歴史、社会、思想、政治、経済などの授業に託す。

②小文字の c 文化 →外国語教育に持ち込みやすく、現場でのコミュニケーションにも有用。

3. 語学教育における、文化の分類:どこにポイントをおいてc文化をみるか。

参考 1: 中国語教育の 15 のトピック(『めやす』より)

- | | | | |
|--------------|-------------|-------------|-------------|
| 1. 自分と身近な人びと | 5. 衣とファッション | 9. 買い物 | 13. 地域社会と世界 |
| 2. 学校生活 | 6. 住まい | 10. 交通と旅行 | 14. 自然環境 |
| 3. 日常生活 | 7. からだと健康 | 11. 人とのつきあい | 15. ことば |
| 4. 食 | 8. 趣味と遊び | 12. 行事 | |

※めやす Web site には、指導の際に着目すべき事項を紹介。但し、授業での活用方法は提示されていない。

参考 2: 日本語教育の文化のジャンル(国際交流基金 2010:6 を再構成)

■ 社会生活を知る上で必要な情報

- 対人関係 あいさつ、名前・敬称、上下関係、親疎関係、内外関係
- 生活 住居、衣(制服、きもの)、食(食べ物、料理)、趣味・娯楽
仕事・職業、家族構成、生活リズム(日常生活、学校生活)、休日・休暇
- 社会システム 交通システム、生活インフラ、通信(郵便、電話、Eメール)、メディア(テレビ、ラジオ、
新聞、インターネット)、学校、金融、医療、行政、社会ルール
- 習慣・慣習 礼儀・作法、冠婚葬祭、年中行事、贈答

■ 日本を深く理解するために必要な情報

- 伝統・芸能など 茶道・華道・書道、伝統芸能、柔道・空手・相撲、祭り、日本的な遊び
サブカルチャー(映画・ドラマ、まんが・アニメ、音楽)、スポーツ
- 社会・人文科学 政治、経済、教育、歴史、宗教
- 自然環境 地理、気候

4.c 文化が登場するスクリプト例

① 荒川他 2007:51:第 8 課

木下:刘佳的快到了,咱们给她买个礼物吧。
中田:有没有五个或者七个一套的?
售货员:没有,中国人喜欢偶数。
木下:是吗?咱们买两个还是六个?
售货员:买六个吧,六六大顺。

② 荒川他 2007:55:第 9 課

木下:我渴了,先喝点儿水吧。
刘佳:来,请喝水。
木下:这水怎么是热的?
刘佳:你不是要喝水吗?
木下:我想喝凉的水,不是热水。
刘佳:哦,是“冰水”呀,在冰箱里放着呢。

③ 荒川他 2007:60:第 10 課

刘佳:中国骑车的人比日本多,你小心点儿。
中田:我在日本也常常骑车,没问题。
刘佳:可是在日本,路上的人没有这么多啊。
中田:欸,这自行车怎么没有灯?
刘佳:中国的自行车都没有灯。

④ 中西 2009:3

A:水煮鱼可是很辣的。你能吃吗?
B:是吗?我以为是不辣的。

⑤ 中西 2009:17

A:哈尔滨的冰灯节别具特色。你觉得呢?
B:你说得很对!今年寒假去看看吧。

⑥ 柴 2013

铃木:听说中国男人做菜做得也很好。你会不会包饺子?
张明:当然会呀!(中略)
张明:我一个小时能包三斤饺子。一斤饺子大约有两三份儿吧。(第 7 課)



⑦首都大学東京中国文学研究室 2008

张瑞: 今天天气很好。
みゆ: 对。真是个旅行“日和”。
张瑞: 旅行“日和”? “日和”是什么意思?
みゆ: 你不知道吗? 是好天气的意思。
张瑞: 汉语不这么说。(第 16 課)

⑨首都大学東京中国文学研究室 2008

张瑞: 是的。这次我了解了很多日本的风俗习惯。
父亲: 是吗? 跟中国有很多不同的吧?
张瑞: 对, 比如说, 日本人打招呼的时候常常鞠躬, 中国人没有这个习惯。
父亲: 那, 中国人怎么打招呼?
张瑞: 一般说几句寒暄话或者握握手。(第 17 課)

⑧范・小幡 2013

优花: 这叫油条吗?
秀秀: 对, 这是油条。
优花: 我吃油条, 你吃什么?
优花: 我也吃油条。
秀秀: 你喝牛奶吗?
优花: 我不喝牛奶, 喝豆浆。(第 2 課)



5. 日本語母語学習者からみる中国語学習「気づき」のポイント

- ①社会言語学的視点からの適切な発話、語感、親疎、ポライトネス、ストラテジーなど
- ②語彙: 日中共通の語(表す意味のずれまたはまったく異なる)、中国ならではの語彙、ことわざ、成語
- ③言い回し: ある表現の日本語表現と中国語表現の同異
- ④日常生活、年中行事のルール・習慣、産物の日中の同異

どこまでが文化なのか? 社会的ルールと文化の境界線は? 社会的ルール、文化は重なり所があり、共に重要。

ポップカルチャーサブカル、の類も教えたい。でも、やっぱりあとまわし?

言葉に表れる文化は授業内で教えられそうだが、言葉に表れない文化や言葉だけでは表しきれないものをみせるのも大事では?

すべてに、文化的背景が伴う。語学、文法指導に譲れるものは譲る。

広い中国語圏、地域的、民族的、宗教的差異の対応は?

ノンバーバルコミュニケーションも立派な言語活動だがそれはどこに入れようか。

6. 私たちが置かれている環境、学ぶべき中国語と文化理解、中国語教育の現状

■私たちが外国語を学ぶ環境とは? B.Kachru(1992)の Three Concentric Circle

- 内 Inner circle(その言語(英語)を日常的に使う母語話者の集団)
- ↓ Outer circle(第二言語として、その言語(英語)を使う人々の集団) ...留学している日本人
- 外 Expanding circle(その言語(英語)を外国語として使う可能性のある人々の集団) ...日本にいる学習者

英語は Inner circle < Outer circle < Expanding circle ボーダレス時代の国際語としての英語(神谷 2008)

中国語は Inner circle > Outer circle > **Expanding circle** に暮らす我々が学ぶべき中国語とは?

■現状: 许嘉璐(世界漢語教学学会会長)「海外における中国語教育と実際のニーズとの間には、大きな開きがある。具体的には、中国語教師の素質レベルが低い、教材が系統的に編纂されていない、今の教育評価や試験方法がニーズを満たしていない、などの問題がある。この為、『三教(教師、教材、教授法)』は、解決すべき課題(人民網日本語版 2008 年 12 月 19 日)。」
→日本の中国語教育についても同様のことが言える?

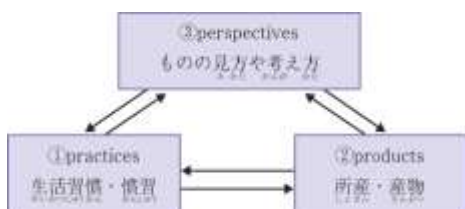
■我々の使命とは? 一方、現場の問題点。

- ・文化のポイントを知る。知った上で、どれを導入すべきか、いつ導入できるかを考える。
- ・教えた文化の優先順位を考え、文化理解過多にならないよう配慮。
- ・週 1~2 コマの授業、テキストとのバランスを考えると文化の「気づき」のアクティビティは入れられない!
- ・テキストに入れておいてくれないと無理! でも、コラムじゃ学習の中に取り込めない! ⇒それでも何か入れたい!

7. 具体的な提案…通常の授業活動の中に、何らかの文化理解のアクティビティ導入のいくつかの提案

- i) テキストの本文のスク립トに入れる(理想)。
- ii) 語彙や文法事項の理解の時の例文に、文化理解を入れ込む。
- iii) 課の単元のテーマにあわせた、文化的アイテム、レアリアを提示して、学生に考えるアクティビティを入れる。
アイテムは一瞬にして何かを考えることができる。レアリア(文字情報)はある程度のレベルが必要になる場合も。

■ ナショナルスタンダーズの文化理解のための三つの P



②は何のために使うものなのか? ②から①と③について考えてもらう形をとる。日本語教育の例では、①や②を観察させることで③を考えるとある(国際交流基金 2010:16)が、授業時間の制約がある場合は、②から入るほうが学習者に与えるインパクトは大きい。

- ①猪
- ②无糖…低糖?
- ③ 花圈 紙钱
- ④生日蛋糕



【参照文献】

神谷雅仁 2008 「日本人は誰の英語を学ぶべきか—World English という視点からの英語教育—」 Sophia Junior College Faculty Journal Vol.28.2008.pp41-71

国際交流基金 2010 『日本事情・日本文化を教える』(日本語教授法シリーズ第 11 巻) ひつじ書房

国際文化フォーラム 2012 『外国語学習のめやす 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』公益財団法人国際文化フォーラム

當作靖彦 2005 「外国語教育における文化の役割」 鎌田修ほか編『言語教育の新展開』,pp.261-274.ひつじ書房

Brooks,N(1964) Language and Language Learning.2nd ed. New York : Harcourt Brace Jovanovich

Brooks,N(1975)“The analysis of Language and Familiar Culture.” The Cultural Revolution, ed . by R.C.Lafayette.Lincolnwood ,IL: National Textbook Company.

Kachru,B (1992)*The Other Tongue:English across Cultures*. Urbana-Champaign:University of Illinois Press

Lessard Clouston,M.(1997) “Towards an Understanding of Culture in L2/FL Education.” *Studies in English*, vol.25. pp.131-150, Nishinomiya:Kwansei Gakuin University Press

National Standards foreign Language Education Project(1999)*Standards for Japanese Language in the 21st Century*

【参照テキスト】

荒川清秀、周関、塩山正純 2007 『キャンパスライフ中国語』[改訂版]白帝社

柴格朗 2013 『鈴木君の中国生活』 駿河台出版社

首都大学東京中国文学研究室 2008 『たのしいの中国語 愉快的汉语』 金星堂

中西千香 2009 『中国語リアルフレーズ BOOK』 研究社

范建明・小幡敏行 2013 『大学一年生のための合格る中国語』朝日出版社